Ｎｏ.80　2023 年（令和５年５月 31 日発行）

グラウンドワーク三島
ボランタリーニュース

発行　特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857　静岡県三島市芝本町６－２
TEL 055(983)0136　FAX 055(973)0022
URL http://www.gwmishima.jp/
E-mail：info@gwmishima.jp

グラウンドワークとは・・・・・・・
市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
（文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。）

手づくり郷土（ふるさと）賞・認定証等授与式

撮影：美和将弘

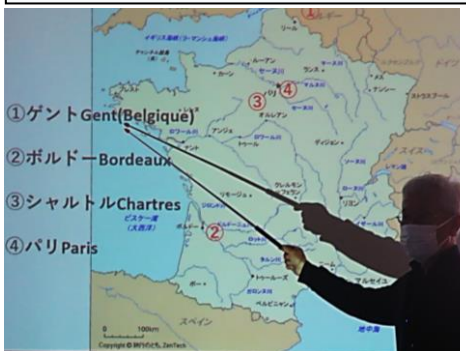
手づくり郷土賞は、地域の個性・魅力を創出し、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的に、昭和 61 年度に創設された国土交通大臣表彰制度。ＧＷ三島へのこの認定証授与式が、2 月 21 日、三島市民生涯学習センター3 階の多目的ホールで開催された。主催者挨拶（稲田雅裕中部地方整備局長）、来賓挨拶（頼重秀一沼津市長、市川顯三島市副市長）、講評（小浦久子手づくり郷土賞選定委員会委員・神戸芸術工科大学 芸術工学部デザイン学科教授）に続き、認定証、記念品、手づくり郷土賞記念発表会ベストプレゼン賞が授与された。受賞者挨拶を小松幸子ＧＷ三島理事長、活動発表「子どもたちに『緑のプレゼント』を！松毛川『千年の森』再生プロジェクト」を渡辺豊博ＧＷ三島専務理事が行った。最後は、希望ある将来に向けて笑顔の記念撮影。なお、授与式前には松毛川現地視察が行われた。

川勝平太静岡県知事・森貴志副知事に最近の受賞を報告

3 月 16 日、川勝平太静岡県知事・森貴志副知事にＧＷ三島の最近の受賞報告をして、大いに

励まされた。昨年 12 月の第 58 回社会貢献者表彰式典（安倍昭恵財団会長より表彰状・副賞の贈呈）の様子も伝え、さらに今回は、3 月 11 日に開催されたＧＷ三島主催の「水辺の魅力アップ　全国川づくり協働サミット　国内外の先進事例から学ぶ」で「川づくり提言」をした東京理科大学理工学部建築学科の学生・久川明子さんも出席し、持ち込んだ源兵衛川の未来予想図ともいえる緻密な手づくり大型立体模型を示し、「三島街中の水辺再生・魅力アップ計画の提言」を披露した。三島の未来への多角的な視点からの発言が新鮮だった。また、同サミットに社員が参加していた加和太建設会社の河田亮一代表取締役も出席した。出席者それぞれが発言する機会もあり、和やかな表敬訪問となった。

水辺の魅力アップ「全国川づくりサミット」開催国内外の先進事例から学ぶ



3月11日、「全国川づくりサミット」が三島商工会議所4階の会議室Bで開催され、ＺＯＯＭで参加の視聴者もいた。基調講演は演題「フランス・ヨーロッパにおける川づくりの先進性」で、岩岡竜夫東京理科大学理工学部建築学科教授・工学博士から、各都市の先進的な取り組みが映像で紹介された。

ゲント旧市街地の河川が合流する川沿いの美しい風景。ボルドーでは障害物のない路面電車の駅に水辺の風景が広がる。シャルトル大聖堂の投光器や運河沿いの壁へのプロジェクション・マッピング。セーヌ川の水を利用してのパリ市内の冷房ネットワークの話には驚いた。セーヌ川では消防士の水泳訓練も行われているそうだ。新旧の試みが大きなヒントにつながると感じた。

次の話題提供は「川のあるまちと暮らしの風景を考える　都市河川の再生とまちづくり」で、(株)吉村伸一流域計画室の吉村伸一代表取締役。1982年の「川と人の関わりの再生・よこはまかわを考える会」誕生に始まり、運河の新しい使い方等が紹介された。「あふれない、いい川をつくり、暮らしを豊かにする」として、空間の価値、暮らしの質を高めることを重視。機能的な設計に加え、豊かな自然、景観と風景、心地よさ等、市民意識が反映された質の高いデザインの大切さを学ばせていただいた。

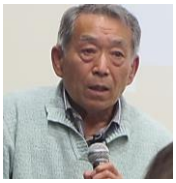
川づくりの提言では「三島街中の水辺再生・魅力アップ計画の提言（御殿川・源兵衛川整備計画の概要）」について東京理科大学（創域）理工学市街地水辺空間の利活用の提言」、出水治輝さんは「憩いのひとときを」、久川明子さんは「川に住まう街・時間と空間のレシピをかけて」。発表者を交えて、「水の都・三島の水辺資源を活かした次なるまちづくり戦略とは」について意見交換会を行った。コーディネーターは、渡辺豊博ＧＷ三島専務理事（元都留文科大学教授・農学博士）。

精巧で緻密な手づくり模型を前に、久川さんの熱心な説明を聞く参加者

松毛川千年の森づくり 水と緑を守るシンポジウム
生き物たちの楽園・河畔林の保全活用を考える

3月19日、三島市民文化会館3階大会議室でＧＷ三島と松毛三日月会主催のシンポジウムを開催。基調講演「松毛川千年の森づくり活動の経過と今後の取り組み」を渡辺豊博ＧＷ三島専務理事が行った。

話題提供は、「植生と植物から見る松毛川の自然」を菅原久夫富士山自然誌研究会会長、「鳥類たちの魅力」を滝道雄日本野鳥の会東富士副代表、「松毛川（灰塚川）をトンボの楽園に」を加須屋真常葉大学非常勤講師が発表。その後、「松毛川の自然環境の保全と活用の方向性とは」について意見交換会を行い、松毛川の魅力や保全の意義、今後の取り組みへの指針を学んだ。



ＺＯＯＭでの視聴者もいた。

松毛川ワンデイチャレンジ「松毛川千年の森づくり」

松毛川は狩野川流域に唯一残された旧河川敷の「止水域」。貴重な河畔林を次世代に伝えるために、ＧＷ三島では平成14（2002）年から森づくりを進めている。

3月21日は、松毛川左岸（沼津市大平・灰塚川）での作業。放置竹林を伐採した跡地に12種類の潜在自然植生の苗木を植林し、植樹地の下草を刈った。5月20日は、松毛川右岸（三島市御園地区）で、昨年植えた約500本の苗木が新たな樹林帯となるよう下草刈り作業に取り組んだ。

ＧＷ三島による森づくり活動は、2022年度・第6回三島市景観賞「優秀賞」と2023年度・国土交通省主催「手づくり郷土賞・ベストプレゼン賞」に選ばれた。

ふるさと三島人物伝 40

富士山麓の野鳥と過ごした半世紀

日本野鳥の会　東富士　副代表　　滝（たき） 道雄（みちお）さん【寄稿】

（グラウンドワーク三島　専門家アドバイザー）　　裾野市在住

私は昭和 26 年に裾野市で生まれた。小学生の頃は、野鳥をカスミ網や鳥もち、罠などで獲り、竹籠で飼育するのが極普通に見られた時代であった。冬の夕方、道に落ちているスズメを見つけ家に持ち帰り手当てをしたが、保温をしなくてはいけないという知識も無く、適切な処置が出来なくスズメは翌朝には硬くなっていた。また、秋にモズがシジュカラに向かって襲いかかり、羽が空に舞い上がった様子は子供の頃の光景として鮮明に残っている。秋も深まるとイカルの群れが熟したムクの実の殻を割る、パチッ、パチッという音と、殻がトタン屋根に落ち鳴らす音も記憶に残っている。昭和 40 年代までは三島市佐野と裾野市麦塚の境を流れる大場川にはヤマセミが極普通に見られ、近くの土手で巣作りもしていた。この頃は特に野鳥に興味があるわけでもなかった。

野鳥の世界に引き込まれていったのは、恩師である髙橋節蔵先生に出会い指導を受けたことによる。駿東郡小山町須走の陸上自衛隊富士学校裏の山林には、トラツグミ、アカハラ、マミジロ、クロツグミ、ヨタカなど多くの種が生息しており、5 月から 8 月に掛けて頻繁に通っていた。髙橋節蔵先生の車に同乗させていただき初めて須走に行った時、霧で車から降りた瞬間の冷気と降り注ぐような野鳥の囀りに圧倒された。髙橋節蔵先生には特注のブラインドの中で野鳥の話は勿論、それ以外にも色々な話をしていただいた。ブラインドの中から観察した野鳥で特に思い出深いのは、静岡県の県民鳥に指定されているサンコウチョウだ。オスは目の周囲がコバルトブルーで、尾の長さは約 30 ㎝にもおよぶ。その他にもアオジに托卵したカッコウが孵化し、目も開いていないカッコウの雛が窪んだ背中にアオジの卵を載せ、巣の外に捨てる習性を目の当たりにした。私が半世紀にもわたり野鳥と関わってこられたのは先生との出会いである。人との出会いが人の一生に大きな影響を与えるということを知った。

私と特定非営利活動法人グラウンドワーク三島との関わりは 2001 年と思われるが、境川・清住緑地の整備に関して開かれた「境川・清住緑地インストラクター養成講座」の受講生として参加した事による。翌 2002 年 1 月から 1 年間調査した結果はリーフレットとしてまとめられた。その後も 2015 年から 2018 年まで鳥類生息調査を実施した。並行して 2008 年から 2017 年の 9 年間は源兵衛川、2017 年から 2018 年に掛けては御殿川の調査、2004 年からは松毛川の鳥類調査を開始し現在に至る。私の調査方法はラインセンサス法で、決められたコースを一定の歩速で歩き、目視、8 倍の双眼鏡、囀り、地鳴きの確認された種と個体数を記録する方法です。調査依頼者によっては年間 2 回とか、春夏秋冬で各 1 回という調査回数を希望するところがあっても、私は 1 年間または数年間にわたり調査することを心がけて実施している。理由は、野鳥は常に移動しているので実際はその場所に生息しているが、野鳥とのすれ違いで確認できないことがありリストに載らないことがあるからだ。また、夏鳥や冬鳥、漂鳥は同月の初旬、中旬、下旬のいつ飛来するかが解らないので調査回数を増やして実態に合う調査結果を追求している。同一箇所の調査を 6 年間継続すると、この調査地に生息する鳥類の 95%以上は確認できる。同一調査地に幾度足を運んでも、ほぼ毎回新たな発見や人との出会いがあり満足感に浸りながら帰途についている。

2020 年、松毛川でのセレモニー後、自然観察会で野鳥の解説

現在は日本野鳥の会、GW三島、静岡県野鳥愛護協会、富士山自然誌研究会、裾野野鳥を守る会、環境省自然公園指導員などで活動をしている。今後とも調査・研究、報告書の作成などを行っていきたい。日本野鳥の会　東富士では小学生を対象に自然に親しんでいただくとともに、後継者の育成も必要だと痛感しキッズ隊を発足させ野外観

みしま 歴史旅　その43

三島と姉妹都市パサディナの交流に尽力

森田 二郎さん

竹田 潔さん

竹田 みゆきさん

ジュリー・タケダさんとブライアン・タケダさん

森田（もりた）　二郎（じろう）さん
竹田（たけだ）　潔（きよし）さん　みゆき夫人
ブライアン・タケダさん
ジュリー夫人

日本の国際姉妹都市縁組の歴史は、県庁所在地の大都市・長崎（米国セントポール）、仙台（米国リバーサイド）、岡山（米国サンノゼ）に次いで４番目に、地方都市の三島市が、米国パサディナと 1957（昭和 32）年７月提携。静岡県内では第１番目。文教都市・三島の歴史的な素地もあったと思われる。当時は、第二次世界大戦後の復興途上であった。そんな中、国際交流への関心と重要性を認識していた先人が存在し、その思いと活動は、今も脈々と受け継がれている。

森田　二郎さん

1892（明治 26）年、静岡県賀茂郡城東村に生まれた。県立下田北高等学校を中退し 17 歳で渡米。パサディナ市立高校、カリフォルニア工科大学を卒業。パサディナ市で暮らし、礼子夫人と共に、世界平和、三島パサディナ両市民の交友親善に尽力。パサディナ日系人ＹＭＣＡ初代会長、日系人初のボーイスカウト会長、パサディナ市キリスト教青年会会長、パサディナ静岡県人会会長,パサディナ姉妹都市協会三島委員長等を歴任。森田さんの広範な交友関係が両市の交流の原動力となった。多くの三島市民が訪米時に献身的な支援を受けた。1975（昭和 50）年、87 歳で逝去。

竹田　潔さん　　みゆき夫人

和歌山県御坊市出身。御坊市の職員だったが、1953（昭和 28）年渡米し、ガーデナーとして精力的に働いた。みゆき夫人の支えもあり、日本文化会館、パサディナ日系シニア、パサディナ剣道道場の指導者として活躍し、日系米国人の居場所作りに情熱を注いだ。日系高齢者協会会長としてボランティアで日系高齢者の旅行を 300 回以上催行し、2004（平成 16）年、ＭＩＲＡ（三島市国際交流協会）主催の三島パサディナ・シニアツアーの企画運営に協力尽力した。同年 10 月、三島市を訪れ、市長表敬訪問し、旧知の人々との交流も深めた。2005（平成 17）年のＭＩＲＡ主催のシニアツアーでも前年同様、自宅で歓迎パーティーを開くなど、ツアー内容はバラエティーに富み、活力にあふれ、用意周到な準備、参加者への心配りに、人柄が偲ばれる。1926（昭和元）年生まれの潔さんは、2020（令和２）年、93 歳で逝去。

←竹田潔さん書の色紙で、堀井さんご夫妻に贈られたもの。裏面には潔さんが「今現在を強く生きる」と、付記してある。

↑2023 年５月 19 日、みゆきさんのご希望で三島にて再会。左より、２回のシニアツアー団長の小松幸子第４代ＭＩＲＡ会長、95 歳になられた竹田みゆきさん、２回のシニアツアーに参加の堀井犁子さん、朝日智雄第５代ＭＩＲＡ会長、ブライアン・タケダさん、堀井毅さん

ブライアン・タケダさん　ジュリー夫人

2023（令和５）年３月 17 日、ブライアン・タケダさんは、武藤顕総領事から旭日双光章を伝達された。日本や日系社会に情熱を注ぎ、日米関係構築に貢献してきたタケダさんの功労を称え、日本政府が旭日双光章を授与した。

タケダさんは、父・竹田潔さんの故郷を訪れた時、日本が自分の一部であり故郷だと感じ、常にその気持ちを胸に日本と日系米国社会がつながる機会を求めていること。そして、今回の受章を父、潔さんにささげたいと述べた。

タケダさんは、父と同じように様々な日系組織で重要な役割を担ってきた。2016（平成 28）年パサディナ日本文化会館に「未来日本語学院パサディナ日本語アカデミー」を設立し、学院長に就任。

2001（平成 13）年三島市長と会談し、パサディナ・三島友好青少年交流事業の設立を発議。コロナ禍で休止するまで両市の青少年の交流プログラムを促進した。2002（平成 14）年からは「姉妹都市委員会三島分科会」の役員も務めている。そこには、常にジュリー夫人の優しい笑顔がある。

さまざまな交流

チャールズ・モリヤマさんとヘレン夫人

ハワイ出身。第二次世界大戦後、進駐軍の一員として三島市を訪れ、1945（昭和 20）年 10 月～1947（昭和 22）年３月。旧小松宮別邸（楽寿園）に滞在した。その際、市民の温かいもてなしと楽寿園のすばらしさに感動し、お礼に 2016（平成 28）年から「園の運営に役立ててほしい」と寄付を始めた。

寄付金は 1,200 万円以上になり、園の事業費に活用されている。毎年のように来日していたが、コロナ禍のため、2023 年４月６日の楽寿園訪問は３年５カ月ぶり。お２人は 98 歳と 93 歳。今回、市長から感謝状が贈られた。

楽寿園内にある、お２人を記念した広場の一角

参考資料：『三島パサディナ 50 年鑑』三島市国際交流協会発行
ＭＩＲＡ通信　讀賣新聞記事（令和５年４月７日付）

Smile スマイル

グラウンドワーク三島との出会いと今後の抱負

ＧＷ三島理事・石巻専修大学教授

【寄稿】　李（い） 東勲（どんふん）さん

令和 4 年度からグラウンドワーク三島の理事職を承りました李 東勲（イ ドンフン）と申します。私が渡辺豊博先生に出会ったのは東日本大震災が発生してから2ヶ月が経った5月でした。当時、石巻市は津波の爪痕が残ったままで、瓦礫が散在していて衛生的にも非常に悪い状況でありましたが、渡辺先生は石巻市まで赴き、被災した子供の支援活動に取り組んでいました。その最中、先生から源兵衛川の再生による地域創生活動を教えて頂き、私自身がより具体的に学ぶため、2011 年 8 月に開催されました「社会起業家育成プログラム」に参加し、環境問題を見事に克服して自然文化を構築したことを学びました。

そして、そこには先代から受け継いだ「まち」をどのように後世に引き渡すべきか「まち」の当事者である地域住民の主導で取り組む「まちづくり」の出発点である「政治」の存在に気づき、石巻の真の復興を目指して活動しましたが、虚しい結果に終わりました。何故かとその原因を調べると、地元・故郷に興味を持たない「無関心」な人が多いということでした。「まちづくり」の基本は近い将来を見据えて、今その地域が抱えている諸問題をどのように解決していくべきかを段階的に計画・実行することであります。つまり、「誰のためのまちづくりなのか」を真剣に考えなければなりません。ほぼすべての地方都市においては「住みやすいまち」を標榜しています。ところが、現在目の前にいる住民も時間と共に年をとり、生活様式も変わっていくし、それぞれが求める「住みやすい」という概念も変わっていきます。このことから、今や源兵衛川に象徴される自然文化が変貌を遂げる時期に差し掛かったのではないかと思われます。

従いまして、これからは再生した自然文化を活用した新たな文化創造に取り組み、故郷を背負っていく子供や若者が誇りを持つ「まちづくり」にチャレンジしていく所存であります。

経験に適うものはない

ＧＷ三島のボランティア参加者

【寄稿】　山口（やまぐち） 裕史（ひろし）さん

長崎県生まれ福岡県育ち、去年の 9 月に神奈川県から、三島の水の綺麗さに魅かれて夫婦で移住してきました。趣味はゴルフで三島には沢山の素敵なゴルフ場があり、よく神奈川県から通っていました。グラウンドワーク三島は知人の紹介で知り、一番最初に来たのは松毛川での蓮花の種蒔きだったと思います。

「森を作っているんだよ。」と聞いた時はびっくりし感動もしました。人と自然との共存を追い求めるボランティア団体が存在する事を知り、少しずつ活動にも参加させて頂き、今はグラウンドワーク三島で働いている妻の手伝いで稲作にも挑戦しています。

トラクターでの耕運、雑草取り、苗の水やり、波板設置等、どの作業も気力と体力を使う大切な工程です。朝から天気と相談しながら汗をかいて楽しくやっていますが、時には心折れて休憩の回数が増えたり農作業の大変さを体感しています。子供の頃、親から「食べ物を残さないように。」と言われた事の本当の意味が恥ずかしながら、この歳になって分かりました。笑

農作業もそうですが、知識よりも経験に適うものはないと思います。未来の三島を担って行く子供たちにも、是非この感覚を味わって欲しい。

ボランティア団体の難しさかもしれませんが、なかなかリピーターの方がいないという事が現実としてあると思います。コロナ禍の影響なのか、自然との触れ合いに興味が無くなってきたのか、要因は色々あると思いますが、グラウンドワーク三島には沢山の人がいつも笑顔が絶えない活気のある現場を作って貰い、三島のボランティア団体を引っ張って行って欲しいと思います。

パッションNo. 46

「そばつくり隊」

そば打ち仲間に、そば作りをしている団体としてＧＷ三島を紹介してもらい、参加したのが始まりです。「そばつくり隊」では、一般参加者及び学生たちの協力を得て、富士山と駿河湾を望む箱根西麓地域でそば作りを行い、援農による遊休農地の活用に取り組んでいます。2005 年度は三ツ谷地区約 2,000 ㎡で蕎麦栽培を行い約 80kg を収穫し、9 年目を迎えた箱根西麓の遊休農地を活用した「三島そば」つくりは、元山中地区でも栽培を開始しました。現在は元山中地区に集約しています。

そばには、夏そば、秋そばがあり「そばつくり隊」は秋そばを栽培しています。秋そばは 8 月下旬に種まき、種は土の中に深く埋めずに、浅くまくのがポイントです。約 3 ヶ月で成育しますので 11 月に上旬に収穫、収穫したソバの実は乾燥させて脱穀した後、唐箕（とうみ）で風を当てて選別し、表面を磨いて製粉します。毎年暮れに元山中で収穫した新そば粉を使い、一般参加者に対してそば打ち体験を三島市民生涯学習センターで開催します。「そばつくり隊」はそば打ち体験の実施に対して協力しています。そば打ちはそば粉と割粉（小麦粉）に水を加えてこねて、伸ばし、そば生地をひろげた後に四つ折りたたみコマ板を使って最適な幅に切って「三島そば」の出来上がりです。毎年参加しているベテランも初めての人も、皆さん、この日を楽しみに種まきや収穫・脱穀、選別作業を行ってきました。昨年までは新型コロナの影響でそばの試食が出来ませんでした。今年はそば打ち時に皆さんで試食が可能になれば、そば栽培、そば打ち及びそば談議に花を咲かせて楽しさ 3 倍となります。　安藤 英彰

満開のそば畑

そば打ち教室

ＧＷ三島の活動記録 2023年2月1日－2023年5月31日

月	日	曜	事　業　名	内　容	場　所	人数
2	4	土	源兵衛川カワニナ引越大作戦	源兵衛川下流域のカワニナを中流域へ移動	源兵衛川	16
	11	土	大場里山・石祠再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	放置竹林伐採	大場地区里山	17
	18	土	大場里山・石祠再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	放置竹林伐採	大場地区里山	13
	21	火	手作り郷土賞認定証授与式	授与式、活動発表	三島市民生涯学習センター	30
	22	水	松毛川ワンデイチャレンジ	放置竹林伐採・チップ化	松毛川	15
	23	木	松毛川ワンデイチャレンジ	放置竹林伐採・チップ化	松毛川	15
	24	金	松毛川ワンデイチャレンジ	放置竹林伐採・チップ化	松毛川	15
	25	土	大場里山・石祠再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	放置竹林伐採	大場地区里山	11
3	4	土	大場里山・石祠再生ﾜﾝﾃﾞｲﾁｬﾚﾝｼﾞ	放置竹林伐採	大場地区里山	16
	11	土	水辺の魅力アップ・全国川づくりサミット	川づくりに関する講演・意見交換	三島商工会議所・会議室	50
	16	木	静岡県知事表敬訪問	社会貢献者表彰授賞・手作り郷土賞受賞報告	静岡県庁	10
	19	日	松毛川千年の森づくり・水と緑を守るシンポジウム	松毛川に関する講演・意見交換	三島市民文化会館・大会議室	40
	21	火	松毛川ワンデイチャレンジ	植樹	松毛川	10
	26	日	ＳＤＧｓ体験塾	源兵衛川ミニミュージアム	大中島会館	10
	30	木	大場里山メダカ池環境再生ワンデイチャレンジ	水辺公園の整備	大場地区里山	10
4	11	木	第43回三島の川をきれいにする奉仕活動	源兵衛川の現地確認	源兵衛川	6
	16	日	理事会・評議員会	現場視察、会議	ＧＷ三島事務局	20
	21	金	鎧坂ミニ公園・みどり野ふれあいの園	草刈り	鎧坂ミニ公園・みどり野ふれあいの園	5
5	14	日	三島の川をきれいにする奉仕活動	源兵衛川・桜川の監視	源兵衛川・桜川	2
	19	金	加和太建設新入社員研修	境川・清住緑地整備活動体験	境川・清住緑地	2
	20	土	松毛川ワンデイチャレンジ	草刈り	松毛川	15
	27	土	松毛川ワンデイチャレンジ	草刈り・竹チップ運搬	松毛川	28
	28	日	腰切不動尊大祭	御堂の清掃、読経、シャギリ奉納	腰切不動尊	100

〈現場で学ぶＳＤＧｓ体験塾〉3/11 30名、3/21 10名、3/26 10名
〈源兵衛川環境出前講座〉5/16 三島市立南小学校 87名
〈定例作業〉★三島梅花藻の里 18回　★源兵衛川 4回　★鏡池ミニ公園 4回　★桜川 4回
★境川・清住緑地愛護会 4回　★雷井戸 4回　★沢地グローバルガーデン 4回
〈定例会議〉★編集会議 8回
〈募金活動〉★東日本大震災、ネパール地震、熊本地震、大阪北部地震、松毛川の森を守る募金
西日本豪雨災害支援募金　随時
〈署名活動〉★三島駅南口「水の都・三島」を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動　随時

視察来訪者記録 R5.2.1～R5.5.31

月	日	視察団体	数	地域
2	21	手作り郷土賞関係者	7	兵庫県他
3	2	カモ・カモンの会	5	静岡県
3	28	山形市役所	8	山形県
5	27	～28 芝浦工業大学	18	東京都

源兵衛川のゲンジボタル 4月26日から飛翔

ホタルの発生は水辺環境の豊かさの証明。三島っ子の愛郷心と具体的な環境保全活動の「証」でもある。水辺に映える「光のプレゼント」を静かに鑑賞してほしい。

今年も、ＧＷ三島のインストラクターの山口東司さんが毎晩観測し、飛翔数を報告している。

ＧＷ三島のＨＰを参照してください。

2022年度・三島産新銘柄米「ゆめみしま」2kg、5kg販売中

ＧＷ三島が「世界かんがい施設遺産・世界水遺産」に登録された農業用水路「源兵衛川」の清流で育てた「ゆめみしま」は、中郷地区で多くの市民と一緒に田植えや収穫をした新米。

2021年3月31日に農林水産省の「産地品種銘柄」に指定された「静岡県産選択銘柄・ゆめみしま」は、ツヤと張りのある大粒で、口の中で1粒1粒の確かな食感を味わうことができ、豊富な甘みが広がる。

価格は2キロ900円、5キロ2,200円（税込み価格で精米販売、玄米は注文）。ご購入は、ＧＷ三島事務所か、通販サイト「グラウンドワーク三島アグリＳＨＯＰ」でどうぞ。

今年度も環境出前講座・体験学習・始動

5月16日、三島市立南小学校4年生が、ＧＷ三島のインストラクター（4グループ順：小松幸子、宮浦雅弘、小林公宣、山口東司）の案内で体験学習。事務局の担当は美和将弘。

源兵衛川7ゾーン、ミシマバイカモ群生地、湧き水スポット、三島梅花藻の里、緑と水の杜、雷井戸、白滝公園等を回った。児童は説明を熱心にメモし、源兵衛川沿いで湧水が湧いているところを見て驚いたり、源兵衛川が世界かんがい施設遺産や世界水遺産になったことを初めて

知った等、率直な感想を語った。解散場所の白滝公園から、児童は徒歩で学校へ。体力も好奇心もいっぱいの子供たちだった。

ＧＷ三島実践塾
源兵衛川カワニナお引越し大作戦

２月４日、源兵衛川下流部（第７ゾーン）に生息するカワニナ（ホタルの幼虫の餌）を採取。1時間半で約３万個を中流部に放流した。今後２回実施し、10万個を放流する予定。

昨年のホタルの飛翔数が、約２カ月間で3,220匹と過去最高だったので、今年、更に飛翔数を増やすために実施。増殖したホタルの幼虫が育つよう、適切な餌の確保と供給のため、ホタルが生息していない下流部のカワニナを中流部に放流した。

大場里山・メダカ池環境再生
ワンデイチャレンジ

三島市大場の県立三島南高等学校に隣接する伊豆縦貫自動車道東側は、里山（水田、休耕田、湿地帯、遊水池、自然水路）が広がっている。道路建設に伴い、その一部が失われることになり、ＧＷ三島は地域住民とともに国土交通省に要望し、2015年３月、「農業用自然水路・ビオトープ・メダカ池」を整備した。以降、三島南高校生、都留文科大学生、地域住民、ボランティアと環境再生活動を継続してきた。

３月30日、メダカ池周辺の草刈り、植林、水路への在来植物の植栽を実施。広場に木製ベンチやテーブルを設置し、道にチップを敷き詰め、遊歩道に、鳥が集う実のつく木々やメダカの産卵のための水草を植えた。

大場里山・石祠再生
ワンデイチャレンジ

この石祠は、三島市大場地区の光明寺境内左手に祀られている秋葉神社の小祠と関係があるのではないかと思われる。昔は、石祠も「鎮火・防火の神」として大場地区の住民が参拝し、維持管理をしてきたと考えられるが、今は地域から忘れられ、荒れ果てている。

昨今は、中村正孝氏が参拝、管理しているが、ＧＷ三島も大場地区の歴史的遺構、文化的な証として「大場の宝・守り神」を再生整備し、守り伝えていくために「再生プロジェクト」全４回（2/11、2/18、 2/25、3/4）を実施した。

石祠周辺の放置竹林の伐採、整備作業には、山仕事の専門職人、加和太建設職員、ボランティア、ＧＷ三島職員が参加し、石祠周辺は見違えるほど明るくきれいになった。

現場で学ぶＳＤＧｓ体験塾（全9回）

第８回　３月11日富士山噴火の秘密・西臼塚の噴火口周遊ツアー：富士山、西臼塚頂上の噴火口の形態を観察し、講師の田村和幸ＧＷ三島インストラクターから火山の仕組み、富士山麓に生息する植物・昆虫の特徴を学んだ。

第９回　３月26日「源兵衛川ミニミュージアム」：雨天で１週間延期での実施だったが、当日も雨天。水槽で魚・水生昆虫を観察。その生態や特徴を加須屋真常葉大学非常勤講師、滝道雄日本野鳥の会東富士副代表、山口東司ＧＷ三島インストラクターが解説。

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.11」　「桜御殿」

桜御殿は、楽寿館の楽寿の間や、梅御殿と共に建造された小松宮彰仁親王の別邸で、親王は生誕地である京都を好み、京風建築様式が取り入れられている。明治25（1892）年、敷地の北側の高台に建てられ、階段のある廊下でつながっていた。

楽寿の間は謁見の場、桜御殿は主として小松宮彰仁親王の休息の場として使われた。木造２階建で建築面積は144㎡。上下階とも主室のほか数室を配し、南側と北西側を開放的にして眺望を確保した。全体は気品ある書院造ながら、主座敷の床柱に皮付き丸太や磨き丸太の桜木を使い、独創性も交えている。襖絵は、宮廷絵師の野口幽谷や滝和亭に依頼したといわれている。特に桜の木が描かれた襖絵を気に入り、東京に持ち帰ったが、戦災で焼失してしまった。欄間には竹槍の竹が使われ、主照明は当時のまま残っている。

明治36（1903）年、小松宮彰仁親王が亡くなると、明治45（1912）年、朝鮮王朝の李垠殿下が所有した。その後、李垠殿下夫妻が世界旅行費捻出のため売りに出したが当時の三島町は買うことが出来ず、分割販売を検討していたところ、昭和２（1927）年、東海の名園が分割されてしまうのを惜しんで緒明圭造氏が一括購入した。

2019（令和元）年、桜御殿は国の登録有形文化財として登録され、令和３（(2021）年には、三島市の歴史的風致建造物となった。

なお、造船業、海運業、不動産業等と事業を拡大した緒明家（名字取得後）は、初代・緒明嘉吉氏、２代・緒明菊三郎氏、３代・緒明圭造氏、４代・緒明太郎氏、５代・緒明實（ＧＷ三島初代理事長）氏、６代・緒明春雄（ＧＷ三島理事）氏と、現在に至るまで地域に多大な貢献をされており、三島市の誇りである。　※参考：資料「桜御殿」

桜御殿

床の間

欄間

三島市内の写真集

撮 影 者：やまぼうし
撮影場所：伊豆フルーツパーク（塚原新田）
撮影日時：2023/4/28 14:50
ひとこと：伊豆フルーツパークの広場一面に、青く可愛らしいネモフィラの花が咲いていた。この日は好天で富士山も姿を現わし、花の写真を撮る人、花と富士山を背景に写真を撮る家族・グループ等がたくさん見受けられた。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Ｅメールに添付し、ＧＷ三島事務局まで。Ｅメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使わせていただきます。
＊東日本大震災支援募金
＊ネパール地震支援募金
＊熊本地震支援募金
＊大阪北部地震支援募金
＊松毛川の森を守る募金
＊西日本豪雨災害支援募金

理事会・評議員会・合同会議　開催

４月 16 日、令和５年度の通常総会に向けての理事会・評議員会の合同会議が開催された。令和４年度の事業報告・会計報告、令和５年度の事業計画・予算案、ＧＷ三島の今後の取り組みの方向性等、ＺＯＯＭでの参加者も交え、熱心に討議された。

ようこそ！岸本幸子さん、ディーレイ・レディーさん

４月 16 日は、偶然が重なった。ＧＷ三島の第１回英国ＧＷ視察訪問団の１人だった岸本幸子さんがＧＷ三島の事務所に立ち寄られた。また、10 年以上前、三島に住んでいて、沢地グローバルガーデンの作業によく家族で参加していたインドのディーレイ・レディーさんが、来日。嬉しい再会となり、大いに盛り上がった。

岸本さんは、現在、公益財団法人パブリックリソース財団の専務理事（代表理事）で多忙に過ごされている。３人家族だったレディーさんは、９年前に長男も誕生し、今はインドのバンガロールで、かつてと同様に得意のＩＴの仕事に携わっている。

４人家族になったレディーさん

台湾で講演（渡辺専務理事）

３月 23 日から 28 日まで、渡辺豊博ＧＷ三島専務理事が台湾で講演。目的は「台湾と日本における川の公共ガバナンスについての交流活動」。まず台北で「地方創生フォーラム」、台中で「都市河川の流域管理」と「河川工事のソーシャルプラネットフォーラム」、雲林で「台湾と日本の河川管理交流フォーラム」、左営で「官民連携プラットフォーラム交流」、再び、台北で「流域での学校運営のあり方」などの会合で講演・意見交換。

３年半ぶりの台湾で、三島での現場からの経験知・専門知・現場学を全力発信。

腰切不動尊の大祭

５月 28 日、腰切不動尊の大祭開催。龍澤寺の僧侶による読経、４年ぶりの田町区砂切

幟旗等の片付けが完了し記念撮影。青木峯子さんと橋本せつ子さん作製の紅白綱も新しく付け替え、すっきり。

保存会のしゃぎり奉納。懸命に演奏する子供、子供たちを気遣う大人、時代が戻って来た感があった。好天の下、日影での『腰切不動尊のいわれ』の紙芝居。伝統を保存する大切さを実感した大祭で、多くの参集者でにぎわった。

グラウンドワーク三島編集室

浅井 一哉　　河田 惠美子
岸野 和子　　城所 徂帝
小松 幸子　　佐々木 覚
相馬 幸永子　　前田 充子
山﨑 多紀子　　山田 勝造
（五十音順）
ＧＷ三島事務局担当：美和 将弘